

チーム医療 PBL カードゲームを実施しました。

7月25日(木)13:30～15:30に、岐阜医療科学大学と連携し、チーム医療 PBL カードゲームを実施しました。43名が参加し、4～5人のグループに分かれ、カードゲーム形式でケーススタディを行いました。このゲームを通して、チーム医療の流れを知り、医療現場で必要なコミュニケーションを体験し、チームで協力して課題解決をすることを学びました。それぞれの場面で与えられたミッションをこなし、岐阜医療科学大学の大学院保健医療学研究科の田中先生から正解と医学的見地からの解説をしていただきました。2時間があっという間に感じられるほど、密度の濃い、探究的な学びをしました。(以下は参加した生徒の感想からの抜粋です)



・今まで治療法について全然知らなかったけれど、カードゲームを通して、どの治療法をいつ使うのか、なぜ使うのかなどの細かいことを楽しく学べることができたので良かったです。また今日の講義を通してまずは第一に患者の症状や状況を一番に考えてそこから対策を考える必要があることに気づくことができました。

・今回はカードゲームで間違えたり失敗したりしても笑って終わったけれど、本当の医療は失敗が許されないし、患者さんの命に関わるから浅い知識ではいけないからやはり勉強しないとって思いました。

・カードのゲームは驚くことばかりでした。全ての段階でそれが必要なんだと思いました。特に自分の担当した臨床検査技師はどんな時に症状が起こったか、「胸が痛い」という事に対して心臓をくわしく調べるにはどれが必要なのかを考えて選びましたが、最後までどれを選ぶべきか困りました。チーム医療はそれぞれの専門の人が正しく知識を使わなければいけないし、わからないことは許されないのでもっとくわしく学び、新しい事に興味を持ち続けられるようにしたいです。

・今回の PBL カードゲームに参加して、それぞれの専門職の意見を交えながら判断することが大切だと分かりました。専門職ごとに視点が変わるので、自分だけで判断しないことが重要だと感じました。またもっと他の医療職について知ってみたいと思いました。

